

## 1 学校教育目標

- 1 礼儀を重んじ他を思いやる生徒（徳）
- 1 自ら考え創造する生徒（知）
- 1 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒（体）

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校</li> <li>○教師が常に指導力の向上を目指し自信と誇りをもって教える学校</li> <li>○生徒・保護者・地域から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自尊感情と自己肯定感の高い生徒</li> <li>○礼儀正しく、他者には優しく自己に厳しい生徒</li> <li>○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒</li> <li>○自ら考え判断し行動できる生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師</li> <li>○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師</li> <li>○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 <学校の現状>

学校は全体的に落ち着いた雰囲気、生徒は学習やスポーツによく取り組んでいる。学校行事は3年生が中心になり創り上げている。多くの生徒が熱心に取り組む達成感や成就感を得ることができている。生徒アンケート結果「学校が楽しい」と回答した生徒が86.5%、保護者アンケート「子供は六月中の生活に満足している」に92.3%が肯定的回答であった。

### 2 <成果と課題>

- ・リーディングDXスクール連携協力校として、年間9回の研修会（内2回公開授業、3回研究授業）を実施した。全ての教科においてタブレットを生徒に活用させ、考えたり調べたり学びあったりする授業を展開した。今後は、さらに個別最適な学びを実現し生徒一人一人の学力向上を図る。
- ・朝読書が定着し2学年でビブリオバトルを実施するなど図書館活用の工夫に取り組んだ。しかし、図書館の活用率向上には十分に繋がっていない。生徒が積極的に図書館を活用するようにさらに工夫をしていく。

### 3 <健全育成>

生徒のアンケート「六月中での生活は楽しい」と回答している生徒は86.5%、保護者アンケート「いじめのない生活を送っている」92.6%と高い数値であった。年間30日以上欠席生徒が9.3%ほどいる。しかし不登校対策のスマール・ステップルーム（SSR）を活用して、試行錯誤ではあるが登校のハードルを下げる事ができている。今後は対象生徒の将来につながるキャリア教育の在り方を検討していく。

学校運営協議会設置校として地域の教育力を生かした教育活動を小学校との連携も図りながら継続、発展させていく。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の推進	○	○	○	○	
3	心の教育の充実	○	○	○	○	

## 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
主体的・対話的で深い学びの実現		到達度確認テスト 正答率学校全体 60%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT モデル校として Chromebook を活用し、全教科において複線型授業の実現を図る。</li> <li>・ ICT モデル校研究授業 3教科×3回</li> <li>・ 校内研修 年6回</li> <li>・ 公開授業及び報告会の実施</li> <li>・ 管理職による授業観察 年3回</li> <li>・ ブロック内モデル校中学校と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取組状況</li> <li>○ 生徒アンケート「ディスプレイやタブレットを使うと授業がわかりやすい」「ディスプレイやタブレットを使うと授業が楽しい」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒アンケート「ディスプレイやタブレットを使うと授業がわかりやすい」75%以上</li> <li>「ディスプレイやタブレットを使うと授業が楽しい」80%以上</li> </ul>	自己評価の際に記入		

2 継続	基礎学力の 定着	全学年	通年 夏季休業日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○放課後補充教室の実施</li> <li>・5教科 25分×週4回</li> <li>・区調査正答率 40%未満</li> <li>・定期テストC層対象</li> <li>・全生徒でESAT-J対策等</li> <li>○サマースクール(1学年通所型勉強合宿)</li> <li>・全教員体制 7日間</li> <li>・出席率向上のサポート</li> <li>・個別最適グループ分け</li> <li>○家庭学習の習慣化</li> <li>・学力に応じたAIドリルや紙ベースの課題提供</li> <li>・ICTモデル校として様々な形式での課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末到達度確認テスト</li> <li>○ESAT-J及びYEAR1・2、GTECの結果</li> <li>○区調査意識調査「学校の授業がある月曜日から金曜日に、学校の授業以外で1日どれくらい勉強していますか(塾含む)」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末到達度確認テスト 60%以上</li> <li>○ESAT-J 前年度比スコアUP</li> <li>○勉強合宿正答率 事後テスト事前テスト+20%</li> <li>○区調査意識調査「学校の授業がある月曜日から金曜日に、学校の授業以外で1日どれくらい勉強していますか(塾含む) ほとんどしない 15%以下</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
3 継続	読解力の向上	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書の実施</li> <li>・週4朝10分間の読書</li> <li>○全学年図書館オリエンテーション実施</li> <li>○1・2年国語で図書館を活用した授業の実施</li> <li>○2年ビブリオバトルの実施(図書館活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取組状況</li> <li>○区調査意識調査「先生から示された課題や自分で立てた課題についてインターネットや図書館から必要な情報を集めて整理することができる」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年実施</li> <li>○区調査意識調査「先生から示された課題や自分で立てた課題についてインターネットや図書館から必要な情報を集めて整理することができる」60%以上</li> </ul>	

重点的な取組事項－２		キャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自信を持ち、将来の夢や目標に向けて努力する生徒の育成		区学力調査の意識調査 「自分にはよいところがあると思う」70%以上 「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」85%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
計画的なキャリア教育の実施	・区学力調査の意識調査 「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」85%以上	○「夢デザインシート」の活用時期を示した3年間を見通したキャリア教育の計画の作成・実施 ○キャリア教育の計画に基づいた各学年での体験活動 ・職業調べ、職場体験、上級学校調べの実施	自己評価の際に記入		
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	・区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」65%以上 ・「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」65%以上	○授業において発表やプレゼンテーションスキルを身に付けられる活動を実施 ○管理職や開かれた委員等との面接練習の実施 ○生徒朝礼の充実(発表場面の設定) ○学校行事や学年行事において発表場面を設定			

重点的な取組事項－３		心の教育の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人の自尊感情・自己肯定感の向上		区調査「自分にはよいところがあると思う」65%以上	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学級活動の改善・充実	○Web-QU 調査 学校生活満足群 45%以上 学級生活不満足群 15%以下 ・自己肯定感の調査 「自分には良いところがある」の数値向上 学校全体 65%以上	・年間を通じたやりとり帳の点検とコメント記入後返却 ・学級開きや席替え時の構成的グループ・エンカウンターの実施 ・Web-QU 調査年間 2 回実施 研修会において結果の検証及び対応の検討 ・エール週間の実施 ・道徳授業地区公開講座の充実	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <b>自己評価の際に記入</b> </div>		
地域貢献活動	関係地域で行われる行事に生徒ボランティア参加	○地域関係者との交流や地域に貢献する意欲の向上。 ・地域清掃ボランティア ・六月中ふれあいいきいきサロン 等			
不登校及びいじめへの対応の充実	○魅力ある学校づくり ○SSR 利用生徒の意識調査 ○いじめアンケートの実施と対応	○修学支援委員会週 1 回の実施による生徒理解 ○SSR の登校支援スタッフ会議（年間 3 回） ○生徒会「いじめ根絶」活動の実施 ○セーフティ教室等で SNS の適切な利用について学習 ○SOS 出し方教育の実施			

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。  
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）